

診療放射線技師の社会的役割と評価

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



明けましておめでとうございます。本年もどうぞ、よろしくお願い致します。

さて、少し堅苦しい表題ではありますが、新年ということで、あらためて基本に立ち返ってみたいと思います。

仕事には必ず「評価」というものが付いてきます。患者からの評価。勤務施設からの評価。社会からの評価。医師・看護師・事務部門などの他部門からの評価、同僚からの評価などです。一般の株式会社であれば、最も大切なのは「会社の利益と顧客の評価」です。であるならば、病院に勤務する私たちは「患者と勤務施設の評価」がそれに当たります。これらの評価を達成するための過程として他部門や同僚からの評価があります。

時々、「コメディカルは医師のために」という言葉を聞きますが、各論では否定しないものの、総論である本来の社会的役割としては違和感を覚えます。

医療現場は施設ごとに千差万別の環境で、比較的規模の大きい病院では読影医が在席しています。しかし多くの医療現場では常勤の読影医が不在であり、多様な患者に対応できる専門医が必ず在籍しているとは限りません。近年ではリモートによる診療や人工知能 (AI) が徐々に普及してきたとはいえ、中規模以下の病院では設備投資も必要であることから、まだまだ時間がかかります。

診療放射線技師の役割は、これらのさまざまな環境に合わせて変化します。装置の安全管理、患者に合わせた精度の高い検査はもちろんのこと、読影医や専門医が不在である場合には、ある程度の読影力と臨床的な知識が必要になります。また読影医や専門医が常駐している場合でも、検査画像の精度管理が求められます。画像の精度管理とは、装置の更新や日常の精度管理、検査方法の変更、読影医や専門医のどれか一つが変わっても最終診断に影響を及ぼさないための管理だと考えています。これらのトータルの画像の精度管理は、医用画像を専門分野とする診療放射線技師が担うものと考えています。

技師会の役割としては、公益法人であることから「社会からの評価」ということになります。役割とは、直接的な社会貢献と人材育成による医療技術の向上を目的とすることです。前者は県民や国民を対象とした公益活動、後者は講習会やセミナーなどの学術がそれにあたります。「技師会は技師会員ののために」という言葉を時々聞きますが、それは本来の社会的役割ではありません。「技師会員ののために」の事業は、技師会内部に設けられた「互助会事業」がそれに当たります。

自分の置かれたさまざまな環境は、時と場合により役割が変化します。変化の激しい時代であるからこそ、アンテナを立て、学会やセミナーなどで、仲間と常にディスカッションすることが必要だと考えています。